



# 糖尿病道場

vol.4 2010年6・7月号 北晨会 恵み野病院糖尿病療養指導士会



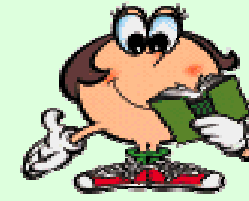
## 糖尿病網膜症を知っていますか？

目の奥のほうには、カメラのフィルムにあたる網膜という組織があります。糖尿病で血糖値が高い状態が長く続くと、その部位が障害を起こしフィルム自体が破損してしまいます。

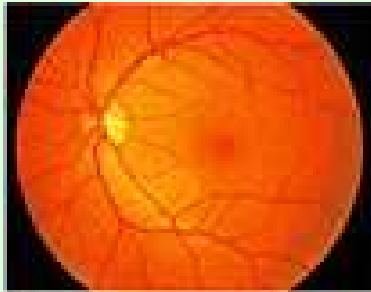
進行によって、単純網膜症、前増殖網膜症、増殖網膜症の3段階に分けられます。網膜症は初期には自覚症状が現れませんが、検査によって異常を発見することが可能です。具体的には眼科で行う精密眼底検査が有効で、この検査は目薬によって瞳の収縮を抑え、カメラでごく初期の小さな出血や破損を見つけだすことができ、早期発見であればあるほど、治療の成功率も高くなります。

しかし、実際には毎年3、000人以上の方が、糖尿病の合併症で視力を失い、成人の失明原因のトップとなっています。糖尿病と診断されたと同時に、眼科医の定期的な診断・精密検査をスタートさせ、習慣づけてください。

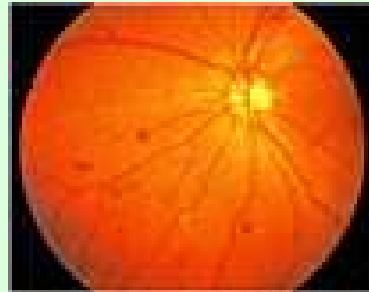
# 糖尿病網膜症の進行段階



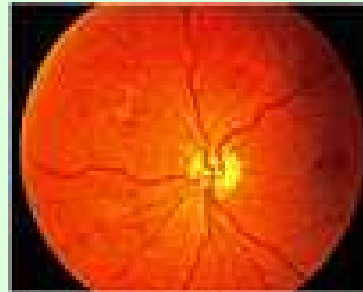
## 正常な網膜



## 単純網膜症



## 前増殖網膜症



## 増殖網膜症



網膜の毛細血管がもろくなります。自覚症状は全くなく、血糖コントロールをよくすると通常、自然に消えていきます。

血管が詰まり、酸素欠乏になり血液が流れない部分が生じます。自覚症状はほとんどなく、この時期にレーザー治療をすると最も良い効果が得られます。

血液が流れない部分に酸素や栄養を送り込もうと、新しい血管が生じます。硝子体出血や網膜剥離を起こす重症段階です。自覚症状は軽度から高度の視力低下で、治療法はレーザー治療や硝子体手術があります。視力の回復は難しく、失明にいたることがあります。



正常な眼

